

種々の artifact や Thrombus、Mural Hematoma、Dissection 等の IVUS 所見について解説があった後に、いろいろな症例の IVUS 所見に関するディスカッションが行われた。

臨床経過からは安定狭心症と思われるが、IVUS では plaque の量が多く、ulceration があり、attenuation も認められた症例があった。このような症例は distal protection を行った方が良いという意見が多かった。

次に最近の心筋梗塞に対して POBA を行った後に mural hematoma ができた症例が示された。アンギオ上は thrombus や dissection と鑑別が難しい症例があるが、IVUS を行ったことによりはっきりとした。

またステントのフォローアップで、ステント内の新生内膜に ulceration 様の所見を認められた症例があった。これについては、何かということは誰もわからなかった。講師の先生によると、ステント留置直後の protrusion または血腫が途中でなくなったのではないかということであった。

IVUS 所見は PCI を行う際に、非常に有用であり、積極的に使用したほうが良いと思われた。